

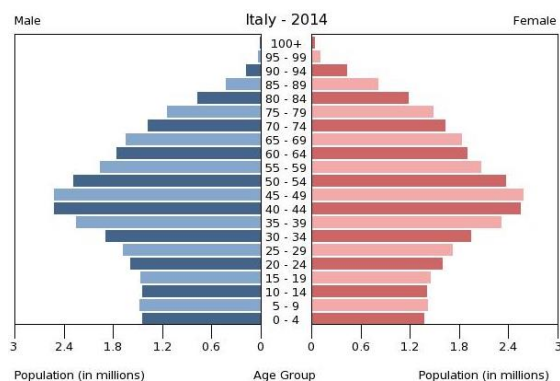


## ④イタリア

---

# 1. 人口:世帯数

2011年の国勢調査で、イタリアの総世帯数は2460万世帯であった。2011年の世帯当り平均人数は2.4人で、2002年の前回調査時の2.7人に比べ減っている。その原因は、独居世帯および二人暮らしの世帯の増加によるものである。



Households in Italy, 2011

	Number of households (million) and household size (persons)
Total number of households	24.6
Of which consisting of	
1 person	7.7
2 people	6.7
3 people	4.9
4 people	4.0
5 people	1.1
6 people and more	0.3
Average household size	2.4

# 1. 人口:アジア系(中国系、韓国系など)の人口

下記の表は、イタリアにおける各アジア系人種別人口を示したものである。不法移民のほか、現在イタリア国籍を持つ中国その他の国からの移民、中国系またはアジア系でイタリアで出生した人の数は含まれていない。イタリア在住の中国人の数はここ10年で急増しており、その人口が最も多いのはミラノである。

**Population of some Asian ethnic groups in Italy, 2004 and 2014**

	2004	2014
Chinese	86,738	256,846
Japanese	5,715	7,676
Korean	2,916	3,484
Vietnamese	876	1,084

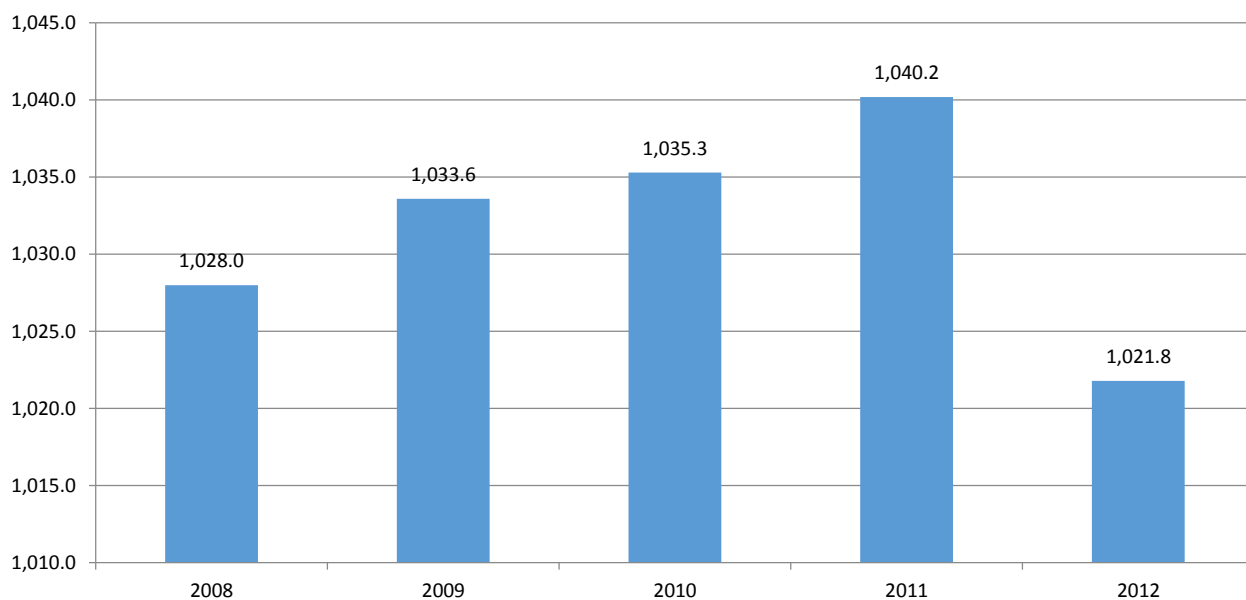
Source: ISTAT

Based on census data, updated with residency statistics.

## 2. 経済概況：平均収入

2012年のイタリアにおける一人当りの月間平均収入は1,021.8ユーロ（2015年2月3日時点の換算率で約1,159米ドル）であった。2012年から2013年にかけて平均賃金は上昇したものの、2012年の平均収入額（最新の入手データ）は、高い失業率と緊縮財政を理由に減少している。

Average monthly income per capita, 2008-2012, Euro

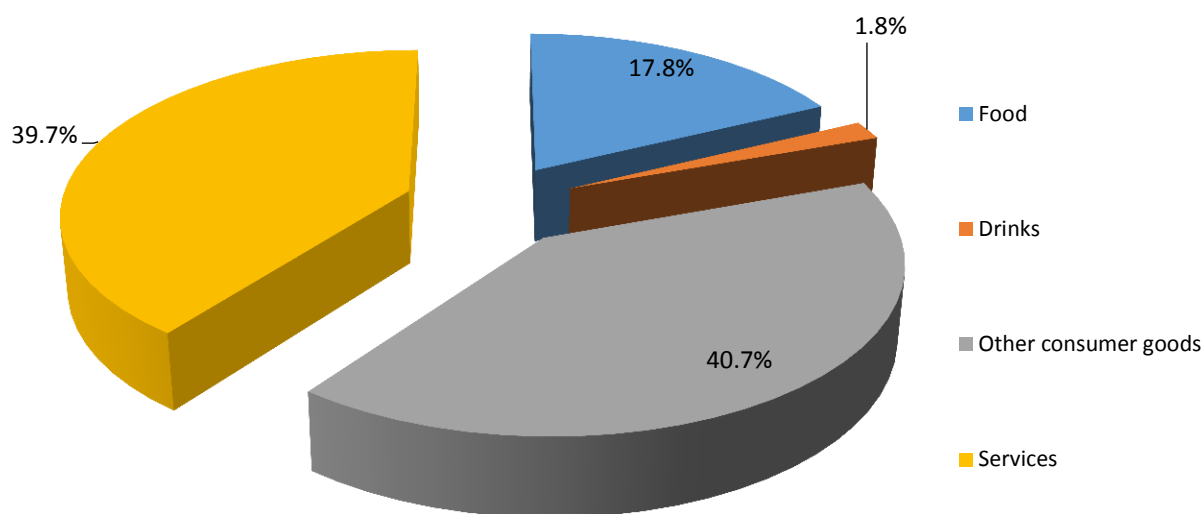


Source: ISTAT  
Based on annual net family income data.

## 2. 経済概況：平均的な食事

公式発表によると、2013年の世帯当たりの月間平均支出額は2,359.05ユーロであった。うち食費が17.8%（418.87ユーロ）、飲料（アルコール飲料、非アルコール飲料双方）にかかる費用が1.8%（41.85ユーロ）を占めている。

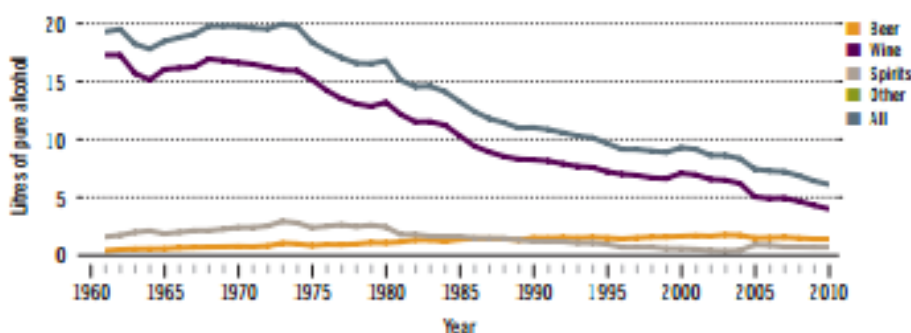
Different categories of expenses as percentage of final consumption expenditure, 2013, %



Source: ISTAT

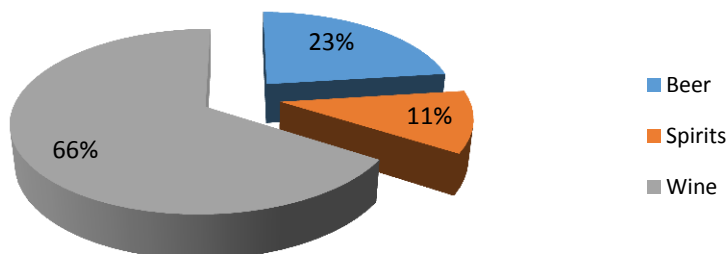
### 3. 食文化：アルコール飲料の消費（日本酒を含む）

世界保健機関（WHO）によると、イタリアで飲酒習慣のある消費者（15歳以上）の年間純アルコール消費量は9.9リットルであった（男性11.9リットル、女性7.2リットル。公式、非公式データの合計。飲酒習慣のある消費者のみ）。一人当りの純アルコール消費量（15歳以上の全人口）は6.7リットルで、内訳は、ワイン（66%）、ビール（23%）、蒸留酒（11%）の順となっている。



Source: WHO

Recorded alcohol per capita (15+) consumption (in litres of pure alcohol) by type of alcoholic beverage, 2010



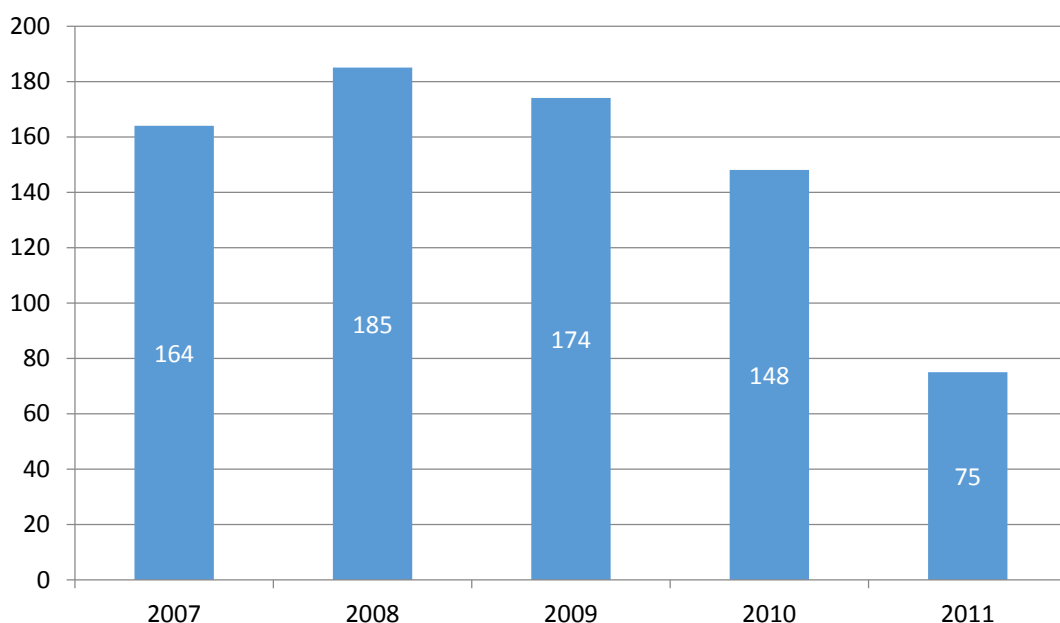
Source: WHO

### 3. 食文化：アルコール飲料の消費（日本酒を含む）

JETROのデータによると、イタリアへの日本酒の輸出量は近年減少傾向にあり、2011年はわずか75,000リットルに止まった。

ラ・ヴィア・デル・サケという団体を2012年に創立した日本酒愛好家マルコ・マッサロット氏によれば、「日本酒は、高級グルメ嗜好品として、イタリアで大きなチャンスがある。イタリア人は古くからのものを愛する国民だ。イタリアには、正統な日本の食文化が新たな発見を生む余地が大いにある」と述べている。

Imports of sake into Italy from Japan (000 litres)

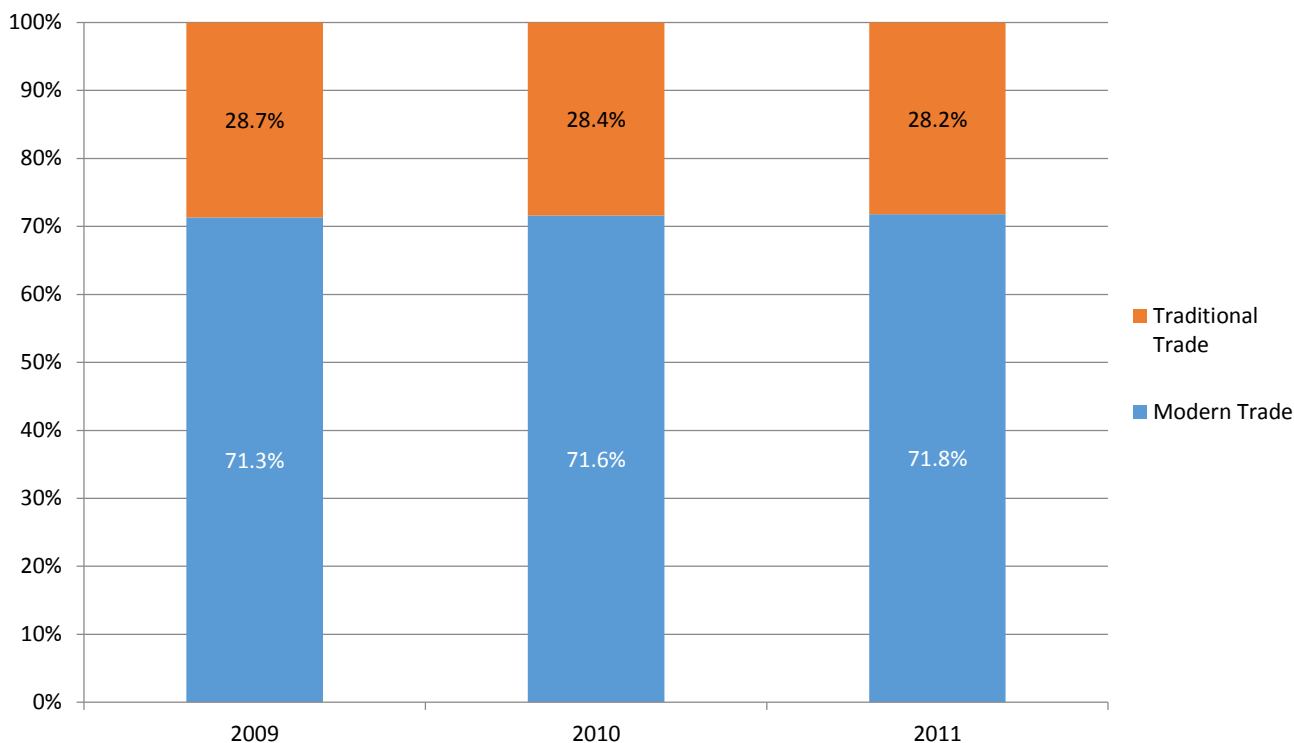


Source: JETRO

## 4. ディストリビューション： 現代型業態 vs 従来型業態

西ヨーロッパの多くの国と異なり、イタリアの小売市場の売上の多くは未だ、昔ながらの店舗が占め、市場が細分化している。現在も、イタリア南部を中心に、8万軒以上、従来型業態の食料品店があるとされている。生鮮食品に関しては大規模店舗（ハイパーマーケット、スーパーマーケット、量販店）が売上の70%を占めるが、食品以外に関しては大規模店舗の売上は40%に過ぎない。大手食品小売業者の中では、イタリアを拠点とするCoopやCONADの力が強い。

Tradition Trade vs Modern Trade in Italy, 2009-2011 (grocery only)



Source: AC Nielsen , ISTAT, quoted by Freshplaza



## 4. ディストリビューション： 日本食レストランの発展

ミラノやトリノなどイタリア北部の都市では、日本食レストランは以前から人気が高い。また、最近ではローマを始め、中部・南部イタリアの町・都市の多くでも人気が高まっている。日本食レストランはミラノだけでも300軒以上あるとされており、これらレストランの大半は個人経営だが、チェーンも増加している。また、日本食レストランの大半は、中国人または韓国人オーナーによる経営である。

### Major Japanese restaurant chains

店名	説明
Sosushi	2013年より英国の投資ファンドClear Leisureが経営。2014年9月時点で18の店舗を展開、うち4軒が直営、14軒がフランチャイズ経営。
Sushiko	2012年創立の食べ放題形式レストラン。アラカルト業態（150席 / 2軒）、回転業態（90-140隻 / 11軒）、フュージョン業態（140-170席 / 16軒）の3つがある。2015年末までに店舗を50軒まで増やす計画という。現在はすべての店舗がローマからスイス国境にかけてのイタリア北部にある。
Zushi	第一号店舗は2006年にオープン。Cristiano Gaifa氏の所有する現代的なインテリアを誇る17軒のレストランチェーンで「現代風」の日本食を提供。食べたいものはメニューからiPadで選ぶ方式。2013年には1000万ユーロの売上を計上。店舗の大半はイタリア北部にあり、そのほとんどがフランチャイズ経営となっている。
Kombusushi	現在イタリア中部・北部に16の店舗を展開。レストラン、デリバリー、テイクアウトを行っており、メニューは寿司が中心。店舗の半分ほどがフランチャイズ経営となっている。
Isushi	ヴェローナに本社を持ち13のフランチャイズ店舗を展開、また近々更に2店舗が新規オープンする予定。現代的なインテリアの店でさまざまなメニューを提供している。
Daruma Sushi	ローマでテイクアウト専門寿司店（3店舗）、および寿司店5店舗を運営するチェーン。宅配も行っている。2003年の設立以来、様々な賞を受賞。寿司のほか、ラーメンも提供している。
Arigato Sushi	ミラノと、ミラノのすぐ北に位置するマッシャーゴに2店舗を展開。店内は広く、バーエリアも設けられており、食べ放題形式。寿司のほかフュージョン料理も提供している。
Wok Sushi	中国人オーナーの経営する小規模チェーン。2001年に設立され、パデュア地方のベニスとトレヴィーゾに2店舗を持つ。中華料理と寿司を提供している。
Wok Italia	極東料理と銘打たれたチェーン。麺類（ラーメン、うどんを含む）、米料理、飲茶を提供。朝食、喫茶も提供している。ローマに5店舗、ミラノに1店舗、サルデニア地方のカリアリに1店舗を展開している。
Tomoyoshi	どちらかというと高級な、3ユニットから成るミラノのチェーン。寿司ほかの日本食を提供している。



⑤ハンガリー

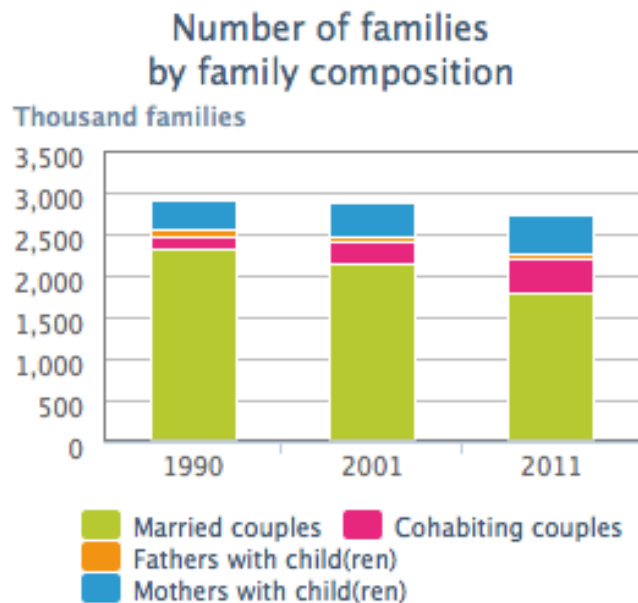
---

# 1. 人口：世帯数

2014年1月1日時点で、ハンガリーの総人口は9,877,000人であった。ハンガリーで最近国勢調査が行なわれたのは2011年で、同調査では、総世帯数および独居世帯数の増加が見られた。以下のグラフは、1990年から2011年までのハンガリーの家族構成の変化を表したものである。

Households in Hungary in 2001 and 2011

	2001	2011
Total number of households (in thousand households)	3,863	4,106
Number of one-person households (in thousand households)	1,014	1,317



Source: Hungarian Central Statistical Office

# 1. 人口:世帯数

## 2011年、2011年のハンガリーの世帯数

### 1.2.2.2 Households by household composition, number of household members, number of persons living in households and number of persons per 100 households

Year, household composition	1	2	3	4	5	6	7	8–	Total	Number of persons per one hundred households
	person(s) in the household									
2001										
One-family household										
Married couples and consensual unions together	–	776,252	621,009	570,587	178,467	39,465	10,375	6,184	2,202,339	316
Lone parent with child(ren)	–	235,101	132,824	34,742	7,370	1,738	540	320	412,635	257
One-family households together	–	1,011,353	753,833	605,329	185,837	41,203	10,915	6,504	2,614,974	307
Two-family household	–	–	–	30,594	40,878	29,624	10,793	5,851	117,740	536
Household with three or more families	–	–	–	–	–	843	1,344	3,730	5,917	868
Households with more families together	–	–	–	30,594	40,878	30,467	12,137	9,581	123,657	552
Family-households total	–	1,011,353	753,833	635,923	226,715	71,670	23,052	16,085	2,738,631	318
One-person household	1,013,889	–	–	–	–	–	–	–	1,013,889	100
Household of other composition	–	99,634	8,846	1,269	273	104	25	31	110,182	212
Non-family households total	1,013,889	99,634	8,846	1,269	273	104	25	31	1,124,071	111
Total	1,013,889	1,110,987	762,679	637,192	226,988	71,774	23,077	16,116	3,862,702	257
2011										
One-family household										
Married couple	–	639,577	496,284	396,327	131,899	30,415	8,405	5,236	1,708,143	310
Consensual union	–	150,290	119,895	65,181	26,128	9,052	3,451	2,730	376,727	306
Married couples and consensual unions together	–	789,867	616,179	461,508	158,027	39,467	11,856	7,966	2,084,870	310
Lone parent with child(ren)	–	297,203	165,095	47,446	12,523	3,810	1,262	823	528,162	261
One-family households together	–	1,087,070	781,274	508,954	170,550	43,277	13,118	8,789	2,613,032	300
Two-family household	–	–	–	11,092	16,180	12,028	4,927	3,660	47,887	553
Household with three or more families	–	–	–	–	–	182	320	995	1,497	901
Households with more families together	–	–	–	11,092	16,180	12,210	5,247	4,655	49,384	564
Family-households total	–	1,087,070	781,274	520,046	186,730	55,487	18,365	13,444	2,662,416	305
One-person household	–	–	–	–	–	–	–	–	1,317,138	100
Household of other composition	–	114,607	9,915	1,231	247	84	29	41	126,154	211
Non-family households total	–	114,607	9,915	1,231	247	84	29	41	1,443,292	110
Total	–	1,201,677	791,189	521,277	186,977	55,571	18,394	13,485	4,105,708	236

Source: Hungarian Central Statistical Office

# 1. 人口: アジア系(中国系など)の人口

ハンガリーにおけるアジア系の二大グループは、中国系およびベトナム系住民である。以下の表は、自らを中国人/ベトナム人と認識している住民、中国語/ベトナム語を母国語とする住民、および家族や友人とは中国語/ベトナム語で話す住民の数が大幅に増加したことを表している。

Population by nationality, mother tongue, language spoken with family members or friends and affinity with nationalities' cultural values

Nationality, language	Nationality	Mother tongue	Language spoken with family members or friends	Affinity with nationalities' cultural values	Belong to nationality
<b>2001</b>					
<b>Chinese</b>	2,275	2,414	2,547	2,475	2,915
<b>Vietnamese</b>	958	1,085	1,089	964	1,244
<b>2011</b>					
<b>Chinese</b>	6,154	5,819	6,072	..	6,770
<b>Vietnamese</b>	3,019	2,674	2,780	..	3,500

2013年のヨーロッパにおける中国系移民について述べた論文では、ハンガリーは1980年代後半に入国ビザを撤廃するなどして、ヨーロッパの中国系移民増加の大きなきっかけとなったと述べている。またハンガリーは共産党支配時代があったことなどから、中国と歴史的にも関わりがある。現在は、約18,000人の中国国民（中国籍のパスポートの所持者）がハンガリーに居住していると推定され、今後数年、この数は引き続き穏やかに上昇していくと考えられている。

ハンガリー在住の日本人の人口については殆どデータが見当たらないが、以下の表は、ハンガリーの（一年以内の）長期滞在許可証を持つ日本人の数を表したものである。

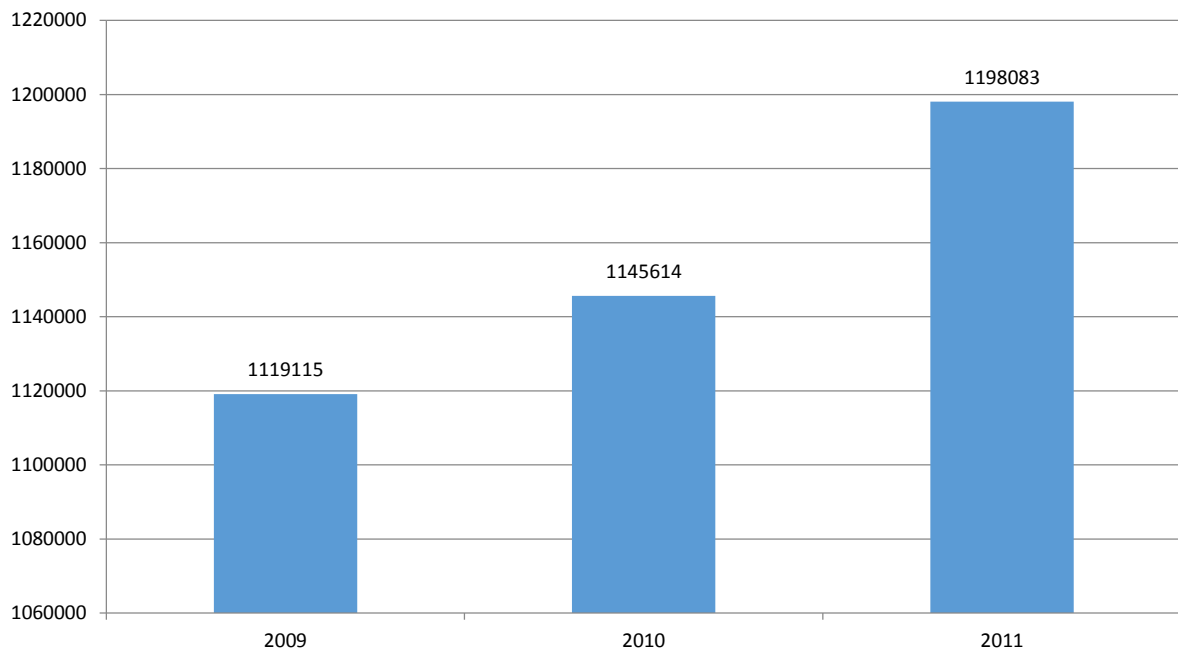
2007	2008	2009	2010	2011	2012
0.294	0.522	0.343	0.279	0.304	0.332

Source: Hungarian Central Statistical Office, Chatham House, and OECD

## 2. 経済概況：平均収入

2011年のハンガリーにおける一人当たり年間平均総所得は1,198,083フォリント（約4,500米ドル）であった。

**Annual per capita income and receipts of households in Hungarian Forint (gross, 2009-2011)**

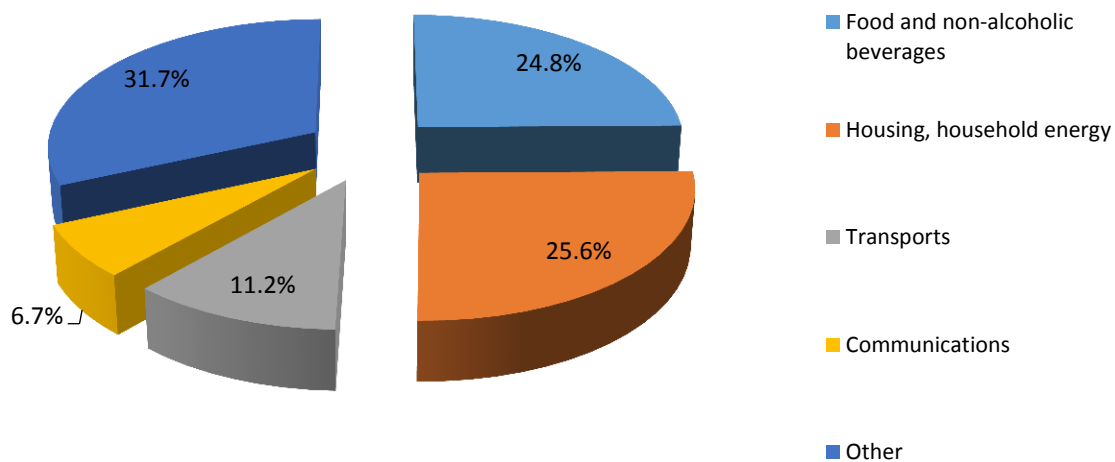


*Source: Hungarian Central Statistical Office*

## 2. 経済概況：平均的な食事

公式の統計によれば、2013年のハンガリーの一人当たり平均月間総支出額は2012年の65,790フォリントから僅かに増加して、66,965フォリントであった。うち、食品および非アルコール飲料の支出額は24.8%を占めた。

Monthly per capita consumption structure, 2013, %

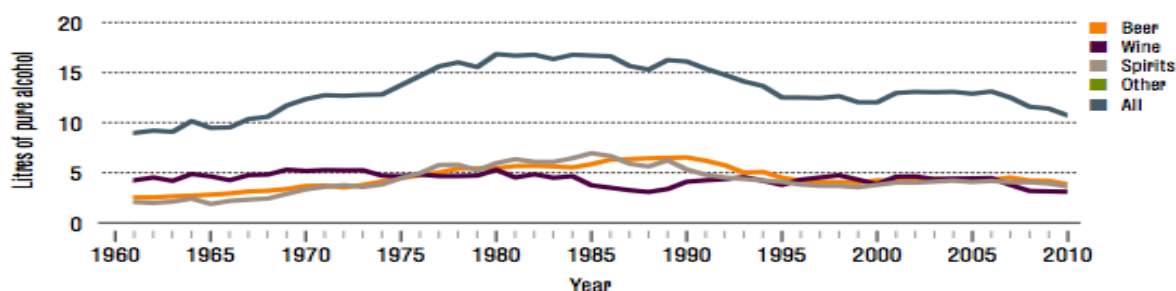


Source: Hungarian Central Statistical Office

### 3. 食文化：アルコール飲料の消費（日本酒を含む）

ハンガリーにおけるアルコールの消費は多い。世界保健機関のデータによれば、ハンガリーで飲酒習慣のある消費者（15歳以上）は年間純アルコールを23.8リットル（男性16.3リットル、女性9.1リットル、公式・非公式の消費量の合計、飲酒習慣のある消費者のみ対象）消費しているという。一人当たりの純アルコール消費量（15歳以上の総人口）は13.3リットルである。内訳としては、ビール(36%)、蒸留酒（34%）、ワイン（30%）がほぼ同率で消費されている。

Recorded alcohol per capita (15+) consumption, 1961–2010. Data refer to litres of pure alcohol per capita (15+).



Source: WHO

Recorded alcohol per capita (15+) consumption (in litres of pure alcohol) by type of alcoholic beverage, 2010



Source: WHO

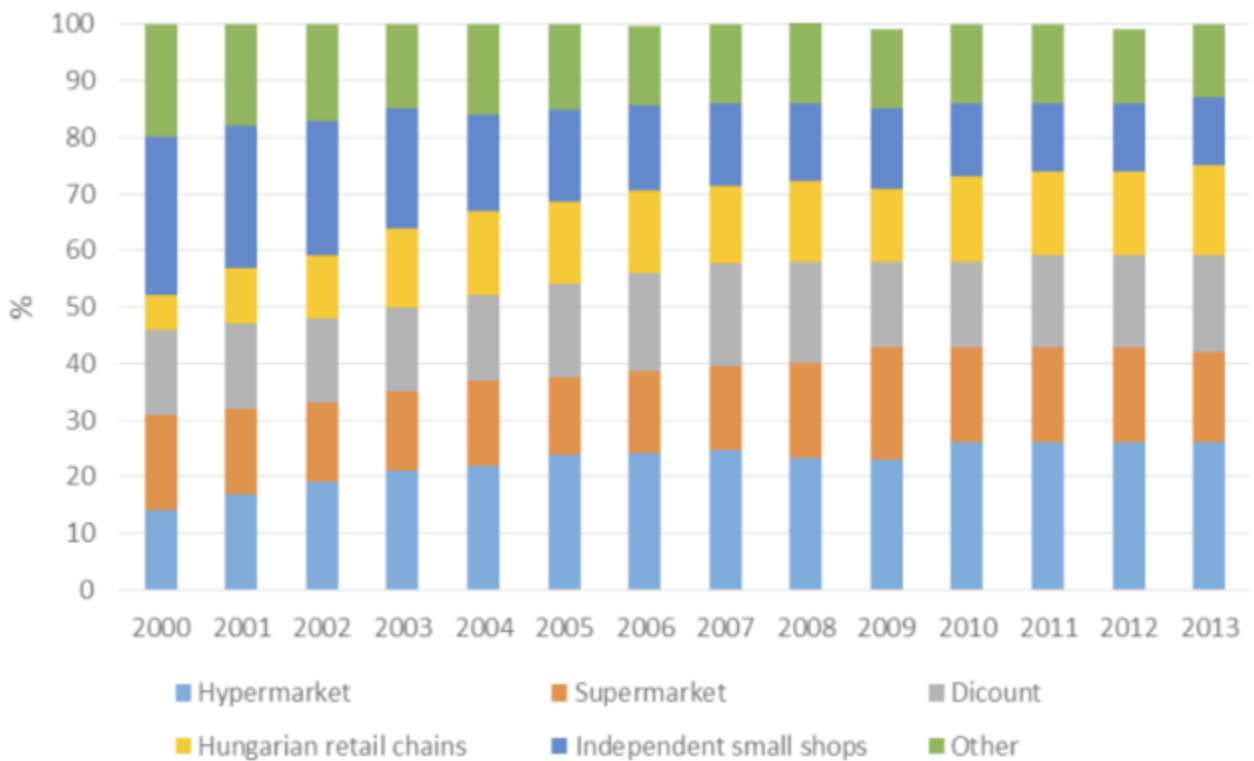
日本酒の消費についての情報はほとんど見当たらない。市場調査会社のユーロモニター社によれば、ブドウ以外の原料で作られたワインはほとんどがフルーツワインで、ブドウを原料とするワインに比べ人気が低い。また、日本酒の最も大きな流通チャンネルである日本食レストランも、ハンガリーでは非常に少ない。



## 4. ディストリビューション： 現代型業態 vs 従来型業態

ハンガリーの小売業の構造は近年の不況の影響を大きく受けている。従来型の生鮮品小売店舗はまだ地方に存在するものの、現代型業態の店が以前にも増して増加している。都市部では従来型の生鮮小売店舗が相次いで閉店しているため、現代型業態の小売業者にとっては商機となっている。

Present structure: share of different retail channels in the Hungarian food retail



Source: Research Institute of Agricultural Economics



## 4. ディストリビューション： 日本食レストランの発展

---

ハンガリーにおける日本食レストランについての情報は極めて限られている。最も新しい報告書は2009年のJETROによるもので、これによれば、2009年にはハンガリーに約30軒（うち首都に13軒）の日本食レストランがあったという。ハンガリーでは（特に寿司を中心として）日本食への関心が高まっているものの、レストラン業全体に占める日本食レストランのシェアは非常に少ない（たとえば2007年にはハンガリーに36,000軒以上のレストランがあったが日本食レストランはそのうち極々僅かであった）。また、日本食レストランの大半は、2000年前後にオープンしたものである。

ハンガリーの日本食レストランは独立系レストランか、同じ経営者が（店名は別にして）複数業態のレストランを経営する方式の一環であることが多い。また、ハンガリー在住ないしは、ハンガリーで勤務している日本人が対象であることが多い。

ブダペストの日本食レストランの一つFujiはハンガリー初の伝統的日本食レストランで、22年前にオープン。自らを「ハンガリーの日本食レストランのパイオニア」と銘打っている。2014年に、ブダペストのFujiの経営陣はハンガリー初の居酒屋となるKanpai Izakai をオープンした。

この他、Wasabi Sushi and Wok社が2005年に、寿司店を含む4店舗を2005年にオープンしている。

レストラン Takebayashi は寿司店 Bambuszliget の経営グループによって運営されている。

Sushi Sei は2000年にオープンした正規の日本食レストランで、一店舗のみ運営している。

Leroy Sushi は2000年に3店舗をオープンしている。

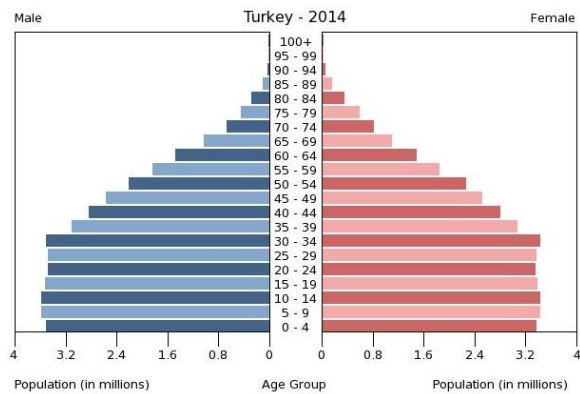
またレストランNobuのシェフが最近（2004年）ブダペストにレストランをオープンしている。



⑥ トルコ

# 1. 人口：世帯数

2011年の国勢調査では、トルコの総世帯数は1950万世帯であった。2011年の世帯当たりの平均人数は3.8人で、2000年の前回調査時の4.5人より減っている。独居世帯数および二人暮らしの世帯数は目に見えて増加しており、逆に5人以上の世帯数は減っている。



Households in Turkey 2000 and 2011

	Number of households (million) and household size (persons)	
	Year 2000	Year 2011
Total number of households	15.1	19.5
Of which consisting of		
1 person	0.8	2.3
2 people	2.1	3.6
3 people	2.6	3.8
4 people	3.5	4.4
5 people	2.3	5.4*
6 people and more	3.8	
Average household size	4.5	3.8

Note: \*Refers to 5 people & over

Source: TurkStat

# 1. 人口：アジア系（中国系、韓国系など）の人口

2011年にトルコに住む住民のうち東アジア諸国を母国とする人は記録されていない。このことは、現在トルコに住む東アジア系住民の人口が一国あたり2000人に満たないことを示している。

外務省によれば、2013年にトルコに居住していた日本人の数は1,851人であった。

**Population of some Asian ethnic groups in Turkey, 2010 and 2013**

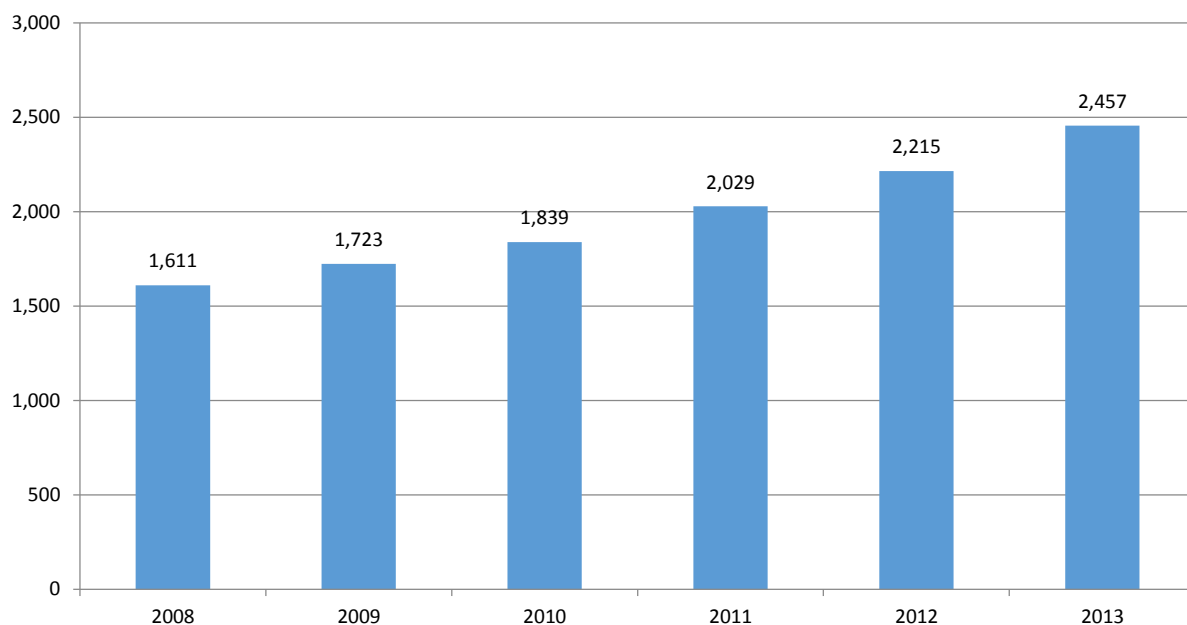
	2010	2013
Japanese	1,430	1,851
Chinese, Korean, Vietnamese	Very small communities, mostly temporary expatriates	

Source: MOFA

## 2. 経済概況：平均収入

トルコの世帯当たりの月間可処分所得は2013年に2,457トルコリラであった（2015年2月6日時点の換算率で、約993米ドル）。一人当りに換算すると、647トルコリラ（262米ドル）。

**Average disposable income per household, 2008-2013, TL**

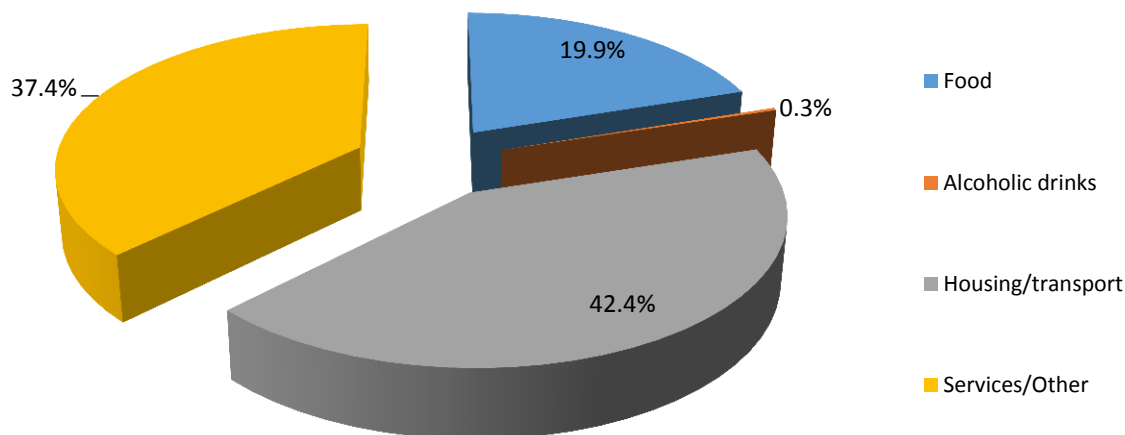


Source: IBGE

## 2. 経済概況：平均的な食事

公式の統計によると、トルコの2013年の世帯当たり月間総支出額は2,572トルコリラ（2015年2月5日時点の換算率で1,055米ドル）であった。このうち食費が19.9%（511トルコリラ）、アルコール飲料が0.3%弱（7トルコリラ）を占める。

Different categories of expenses as percentage of final consumption expenditure, 2013, %

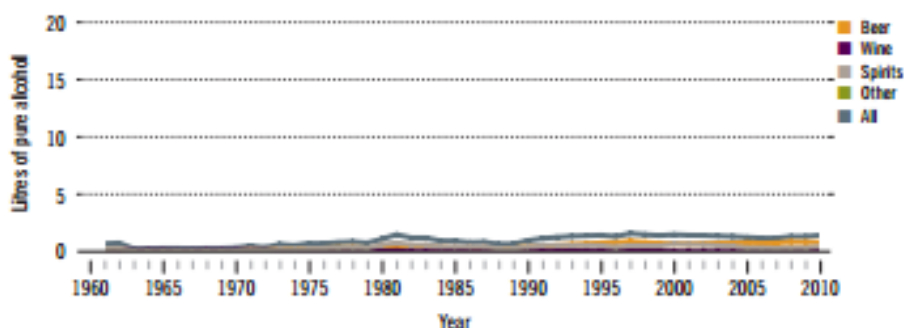


Source: TurkStat

### 3. 食文化：アルコール飲料の消費（日本酒を含む）

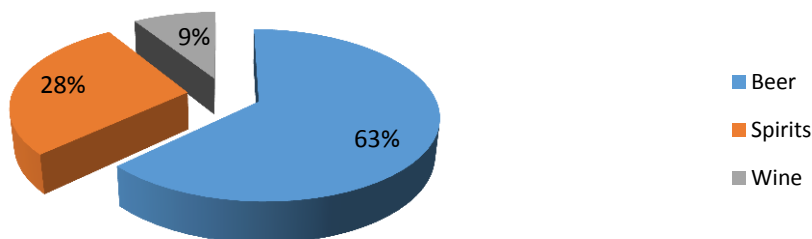
世界保健機関のデータによれば、トルコで飲酒習慣のある消費者（15歳以上）の年間純アルコール消費量は17.3リットル（男性19.7リットル、女性8.2リットル。公式・非公式データの合計、飲酒習慣のある消費者のみ対象）であった。一人当りの純アルコール消費量（15歳以上の全人口）は約2リットル。ただし、トルコでは宗教的、文化的背景により、多くの人はアルコールを口にしない。生涯アルコールを口にしない人は79.6%に上り、うち男性が65.9%、女性が92.4%となっている。アルコール飲料消費の内訳は多い順に、ビール（63%）、ラキを主とする蒸留酒（28%）、ワイン（9%）となっている。

**Recorded alcohol per capita (15+) consumption, 1961–2010. Data refer to litres of pure alcohol per capita (15+).**



Source: WHO

**Recorded alcohol per capita (15+) consumption (in litres of pure alcohol) by type of alcoholic beverage, 2010**



Source: WHO

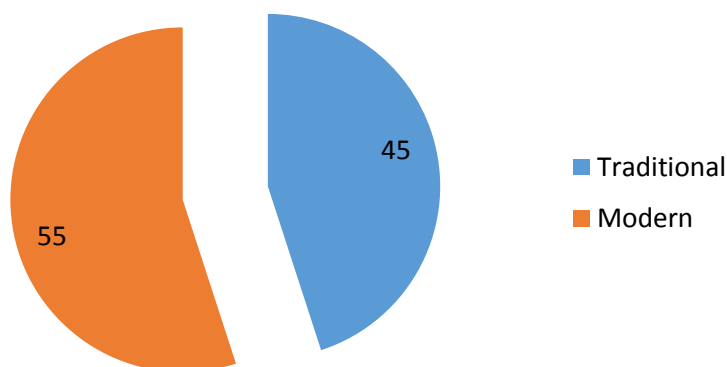
トルコにおける日本酒の消費量は非常に少なく、消費の大半は外国人居住者コミュニティにおける消費、およびトルコの日本食レストランや高級ホテルのバーを訪れる日本人観光客によるものである。日本からトルコへの日本酒輸出量は、JETROが記録として掲載するだけの量に達していない。日本からトルコへの日本酒輸出量の記録としてかろうじて見つかるものは、国連商品貿易統計データベースの「その他の発酵酒」データで、これによれば2011年、2012年にそれぞれ年間約1,000リットルが輸出されたとしている。



## 4. ディストリビューション： 現代型業態 vs 従来型業態

USDA、ドロイトによれば、2013年の生鮮食品小売業の55-57%を占めていたのは組織的な小売業者であった。いずれの情報源のデータも、時系列データは無いが、現代型業態が増えているという点では一致している。Khoiによれば、2010年には全小売業の約44%が現代型業態となっている。従来型業態の小規模商店数は減少の一途を辿り、2013年にはわずか9万店に止まっている一方、現代型業態の店舗（とくにディスカウントストア、ハイパーマーケット）数は引き続き増加している。

Tradition Trade vs Modern Trade in Turkey, 2013, %



Source: USDA

## 4. ディストリビューション： 日本食レストランの発展

日本食レストランはトルコでは比較的珍しい。現在運営している数少ないレストランのほとんどは独立型レストランでイスタンブールにあり、価格も比較的高い。また、このうち多くが、日本人観光客が滞在する高級ホテルに入っている。トルコの人々は魚やメゼ（タパスのような軽食）を好むため日本食も合っているように思えるが、刺身やワサビはあまり人気でないという。トルコ人で日本食を食べたことがある、あるいは日本食が何であるか知っている人は、トルコでもっとも洗練された都市イスタンブールにおいても非常に少ない。

それでも、小規模ではあるが、いくつかのチェーンが出現し始めている。最も大きいチェーンはSushi Coで、日本食に止まらずさまざまなアジア系料理を提供している。

### Japanese restaurant chains

店名	説明
Sushi Co	1997年に設立され、主にイスタンブールとアンカラ、そしてアンタルヤとキプロスで現在17店舗を展開。アジア料理と銘打ち、さまざまな日本食、中華料理、タイ料理を提供している。
Wagamama	イスタンブールに3店舗を構えるラーメンチェーン。店内での食事はもちろん、宅配やテイクアウトも行なっている。
Quick China	Sushi Coと同じく、日本食、中華料理、タイ料理を提供している。5店舗を経営し、うち4店舗がアンカラ、1店舗がイスタンブールにある。

Source: Company websites